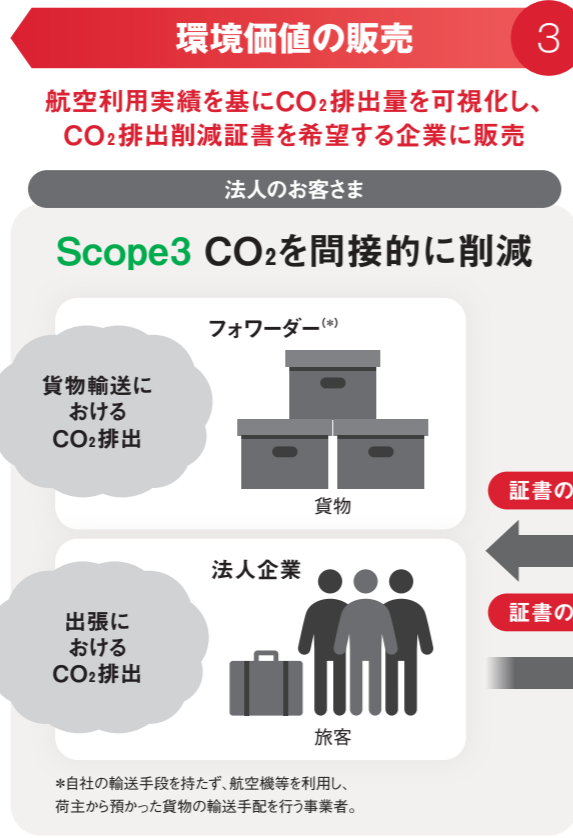
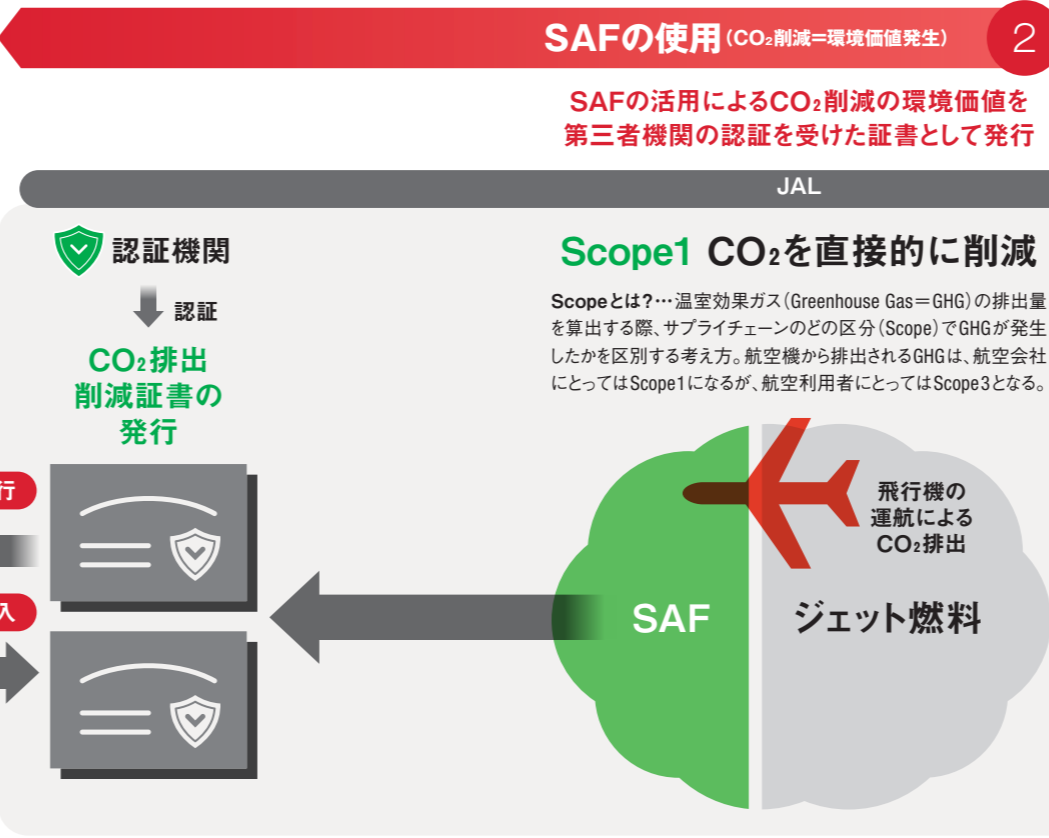
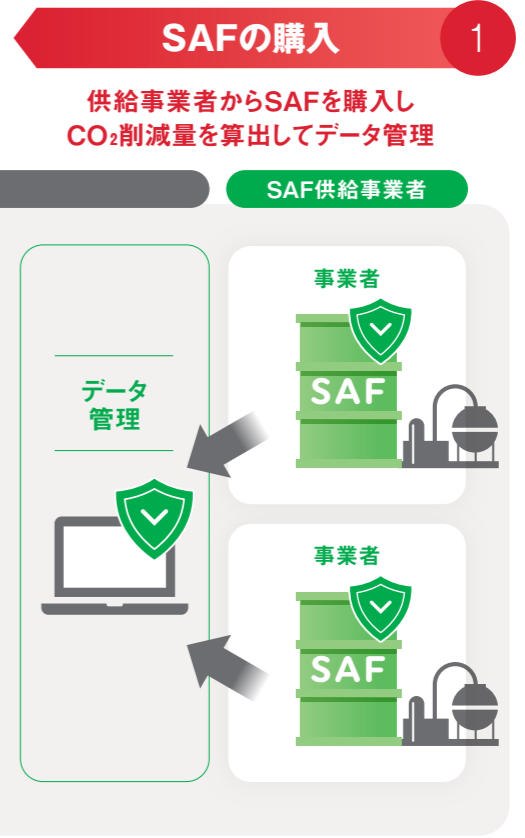


航空脱炭素化に向けて「SAF」を活用した新たな仕組み



JCSP参画企業の声

近鉄エクスプレス
サステナビリティ推進室

寺本 俊哉 さん

社会に不可欠な輸送手段として、航空貨物をご利用いただく荷主企業とその「環境価値(温室効果ガス削減効果)」を共有し、さらにSAFの生産と利用が拡大されるよう、このプログラムの趣旨に賛同し、JALとの協業を深めています。

横河電機
GBSオペレーション企画部長

澤田 忠 さん

SAFの利用促進は航空会社単独では難しく、利用者の理解と協力が欠かせません。事業のグローバル化で飛行機による出張が不可欠な企業として、地球の未来に責任を果たすため、当社はプログラムに参画しました。

JCSP等の詳細と参画企業についてはこちらをご覧ください。

JAL Corporate SAF Program (JCSP) の仕組み

ご存じですか？ SAFの有効性

航空輸送におけるCO₂排出量実質ゼロの実現に向けて、JALグループは「省燃費機材への更新」「日々の運航の工夫」「SAF (Sustainable Aviation Fuel) の活用」という3つの取り組みを推進しています。SAFとは、原油から作られる従来のジェット燃料とは異なり、廃食油や獣脂、農産物の食べられない部分、森林残渣などを原料としており、これらの原料の生産・調達から、製造、輸送、燃焼までのライフサイクルにおいてジェット燃料よりもCO₂排出量を約80%削減できる持続可能な航空燃料です。

JALグループでは、2030年度に全燃料の10%をSAFに置き換えるという目標を掲げ、SAFの導入を促進しています。しかし、国内におけるSAFの認知度はまだまだ低く、普及には課題が残ります。

「JCSP」を通じたSAFの普及拡大

この現状を打破すべく、私たちは昨年「JAL Corporate SAF Program (JCSP)」をスタートしました。これは、貨物輸送や社員の出張にJALグループ便をご利用いただいている法人のお客さまと共に、SAFの普及・拡大を通じてCO₂削減に貢献していくプログラムです。

JCSPの仕組みは、SAFを活用した運航による「CO₂削減の環境価値」を第三者機関の妥当性確認を受けて証書化し、参画企業

今回のテーマに該当する目標



法人のお客さまと共に目指す脱炭素化

「CO₂削減の環境価値」は、温室効果ガス(Greenhouse Gas = GHG)の排出量を算定・報告する際の国際的な基準である「GHGプロトコル・サプライチェーン排出量」の考え方に伴い、注目されているものです。サプライチェーン排出量とは、事業者自らの排出量だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出量の合計を指します。上記の図に登場する「Scope」は、サプライチェーンにおけるGHGの発生範囲を示す区分のこと。法人のお客さまはJCSP



「JCSPは、バリューチェーン内でCO₂排出量を直接削減できるカーボンインセットの取り組みです。この価値を多くの方に知っていただきたいです」と話す、ESG推進部GX企画グループ 吉田雄大。

に提供するというもの。法人のお客さまはCO₂排出削減証書を購入することで、JALグループ便をご利用時のCO₂排出量を間接的に削減できることに加え、航空利用実績に基づくCO₂排出量を「見える化」し、自社開示情報の算出にも活用が可能です。

「JCSPは、バリューチェーン内でCO₂排出量を直接削減できるカーボンインセットの取り組みです。この価値を多くの方に知っていただきたいです」と話す、ESG推進部GX企画グループ 吉田雄大。

に参画いただくことにより、自社では解決できない「自社の事業活動に関連する他社の排出=Scope3」の削減が実現できるというわけです。参画企業は現在8社。参画企業の皆さまには航空業界の脱炭素化に向けたSAFの普及・拡大の一翼を担うことで、持続可能な空の旅にも貢献いただいています。

JALグループは、航空脱炭素化の鍵を握るSAFを今後も活用し、皆さまと共にCO₂排出量削減に取り組んでまいります。

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

